

昭和時代の芸者の生活
おもちゃをできる

リナルヂ スチアヂ

0142022



マラナタキリズト教大学
日本語文学学科
バンドン
2006

映画「おもちゃ」における昭和時代の芸者に関する分析。

序論

芸者という言葉は知らない人はいないだろう。芸者というのは、文字通り、芸をする人である。現在では、芸者と言えば、人は、特に外国人は売春というイメージに結びつけることが多い。

「おもちゃ」という映画は昭和時代の芸者をテーマに取り上げたものである。この映画には、芸者の生き方について描写している。

本論分は、「おもちゃ」という映画を通して、芸者がいかなる生き方をしているか分析である。アプローチ濃 理論は、現象学というものを使うことにする。

本論

現在では、芸者と言えば、すぐマイナスなイメージが頭に浮かんでくるのである。つまり、女性がおかねを手入れるため、身を売るというイメージである。しかし、時代を溯れば、芸者が何であるかわかる。芸者になるためには、簡単ではないのである。芸者になろうとする女性たちは、まず、職業学校に入り、そこで舞踊や茶の湯を学ぶのである。また、さみせんのような楽器をひくこともでもなければならぬ。そのような学校で五年間学習して、舞子になるのである。舞子とは芸者見習いのようなものである。芸者は、日本の伝統的まな御茶屋で働く。彼女らは、そこで、客に踊りを見せたり、話し相手になったり、歌ったりするのである誰とも性交渉をするというイメージはなようなのである。彼女らが性交渉をするのは、自分の旦那あるいは生活費を出して、まともな生活をさせてくれる男性とだけだったのである。そのような男性にとって、芸者は本得から得らなかったことを寝ることができる。つまり、芸者は過るとって、本妻にないものを補充してくれるのである。

「おもちゃ」という映画では、主人公のときこが芸者になるため、毎朝職業学校で舞踊、歌、さみせん、生け花を習いながら、おきやというところで給仕として働く。彼女は先輩の芸者の給仕をするのである。苦汁をなめながらも、彼女は頑張って生きているのである、そして、やっと芸者になることができたのである。

結論

現象学というアプローチを使って、「おもちゃ」という映画における芸者に関して分析してみた結果、次の結論を引き出すことができる。

- 昭和時代の芸者という職業にはマイナスなイメージがない。
- 芸者になるにはさまざまな詩線を受けなければならない。
- 芸者は茶屋に来る客に踊りを見てたり君のために歌を歌ったり、し祖子になったりするがだれとても性交渉はしない。
- 芸者は自分の生活に援助してくれる男性のめかけになったり、性交渉相手する場合がある。

DAFTAR ISI

| | |
|---|------|
| KATA PENGANTAR | i |
| DAFTAR ISI | iii |
| BAB I PENDAHULUAN | 1 |
| 1.1 Latar Belakang Masalah | 1 |
| 1.2 Pembatasan Masalah | 3 |
| 1.3 Tujuan Penelitian | 4 |
| 1.4 Metode Penelitian | 4 |
| 1.5 Organisasi Penelitian..... | 10 |
| BAB II LANDASAN TEORI | 11 |
| 2.1 Sejarah Geisha | 11 |
| 2.2 Penghidupan Geisha | 18 |
| BAB III KEBERADAAN GEISHA DI JAMAN SHOWA | 26 |
| 3.1 Geisha Sebagai Pemuas Seks | 26 |
| 3.2 Geisha Sebagai Teman Minum | 31 |
| 3.3 Geisha Sebagai Wanita Simpanan | 38 |
| BAB IV KESIMPULAN | 47 |
| SINOPSIS | iv |
| DAFTAR PUSTAKA | viii |
| RIWAYAT HIDUP PENULIS | ix |